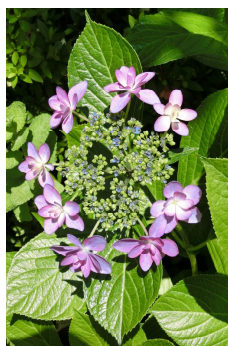




## みこころの広さ、深さ 気づきを聞く言葉かけ 校長 Sr.大山 江理子



梅雨に入る6月。雨模様の天気は鬱陶しいもの。しかし、雨あがりのアジサイの美しさはこの季節ならではの。

5月はマリア様のプラクティス、今月はみこころに向けて努力します。プラクティスは言葉による理解から、実践へと向かう動きです。行動を通して身につける、子どもたちの生活の一つ一つの場面がプラクティスの好機となります。イエスのみこころは大きく、広い心です。どのようにその大きさ、広さを実感する行動ができるでしょうか。子どもにみこころの奥深さに気づかせるためには、大人からの言葉かけによる働きかけも大切になります。お子さんとの言葉のやりとりをふり返ってみると、大人にとっての今月のプラクティスになるかもしれません。

イエスと母マリアの間の言葉のやりとりには思いがけなさがあります。イエスが12歳のころ、親戚と一緒に旅の帰りにイエスが一人で別行動して両親を心配させたとき、母が「なぜこんなことをしてくれたのです。お父さんもわたしも心配して捜していたのです」と言うと、どうして?といぶかしげに「わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか」と答えます。母はわが子の言葉の理解に苦しみます。神のことを父と呼ぶイエスは、より大きな理解に向けて母にチャレンジしているかのようです。(ルカによる福音書2章41~51) また別の場面では、母とイエスが丁々発止のやりとりをします。そろって招かれている結婚披露宴の席で、葡萄酒が足りないことに気づいた母は、イエスに「ぶどう酒がなくなりました」と告げます。対するイエスの返答は素気なく聞こえます。「婦人よ、わたしにどんなかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」しかし、母は周りの人にイエスに従うように頼んでしまいます。母はイエスに「時」についての理解を強いているのです。(ヨハネによる福音書2章1~5)

この二人の関わりは母子という枠組みを越える、二つの人格の出会いです。私たちも子どもの言葉に驚かされ、目が開かれることがあります。そのような時には人格の深みでお互いに出会っています。どのような言葉かけがあったのでしょうか。親子の立場にとらわれない、誠実な「聴く」と「語る」がきっとあったことでしょう。お子さんの深みを引き出した言葉をふり返ってつけてください。

### 6月の予定

- 1日(木) 金曜時間割
- 2日(金) 家庭学習日(木曜時間割)  
(私学一日研修会)
- 5日(月) 1年・転入・編入生保護者会
- 6日(火)~9日(金) 5年校外学習(清里)
- 7日(水) 6年美術館見学  
母の会代表幹事会
- 10日(土) 学校説明会  
聖心女子大学災害復興支援  
チャリティデー (自由参加)
- 13日(火) 1日学校参観日  
下校グループ親子集会(4限)

### ~みこころの月~

- 16日(金) 2年自然教育園
- 19日(月) 初1年入試・初5年転編入試  
対象授業公開
- 20日(火) 6年まとめのテスト①
- 23日(金) みこころの祝日  
ミサ・奉仕活動・映画鑑賞会
- 24日(土) 保護者講演会・学級懇談会  
転入・編入・編入帰国生対象  
学校説明会
- 26日(月) 5・6年水泳開始

◎23日(金)のミサは、1年生と各学年の転入・編入生の希望される保護者の方のみの参加となります。ご了承ください。

## 魂を助けるもの

前日までの雨に、運動会の実施を心配し、神様に祈る子どもたちの姿がありましたが、当日は皆の願いが叶い、晴天のもと今年も創立者聖マグダレナ・ソフィア・バラを記念する運動会が行われました。多くの保護者の方のご理解とご協力に支えられ、子どもたちは最後まで、全力で競技、演技をし、そして係活動や応援にも力を尽くしました。ご声援を感謝申し上げますと共に、施設面での行き届かない点がありましたこと、お詫び申し上げます。

聖心女子学院の教育方針には、「魂を育てる」「知性を磨く」「実行力を養う」という3つの柱がありますが、聖マグダレナ・ソフィアは聖心会の指導要領で体育について「もし、身体が意志の命令にすばやく応じることができる、よい道具となるように鍛えられれば、それは、魂を助けるしもべとして非常に役立つようになる」と述べています。正しいことを行える意志の強さ、周囲の困っている人に心を寄せる優しさのある子どもに育てるために、自らの身体をコントロールできるよう運動を通して育てていくことも大切ということでしょう。

運動会の練習を通して、身体を動かすことに喜びを感じ、友達と協力することの幸せを体験した子どもたちがたくさんいます。これからも学校生活の中で、子どもたちが身体を鍛えることに積極的に取り組む場を設け、「魂を育てる」ことに繋げて行きたいと思います。心をひとつにして運動会を成功させた子どもたちに、聖マグダレナ・ソフィアも天国から拍手を送っていらっしやることと思います。

〈聖マグダレナ・ソフィアへの手紙 3年生〉

「わたしは、今日、聖マグダレナ・ソフィアがどれだけ苦勞して世界中を旅しながら聖心をつくったかがわかりました。わたしも神様のことを信じることができるようがんばります。神様のことをさい後まで信じたのは、すごいと思います。」

「わたしは、聖マグダレナ・ソフィアの仲間がつくってくださった聖心で、今べん強しています。あなたは、『わたしはたった一人の子どものためにも学校つくったでしょう』とおっしゃいました。わたしは、あなたみたいにあきらめない心を持ちたいです。そのために、天からその力をどうぞおおくってください。」

## 聖心女子大学 災害復興支援チャリティデーのお知らせ

6月10日(土) 12:30~16:00 聖心女子大学学生食堂にて災害復興支援チャリティデーの催しとしてバザーが行われます。

この催しは2012年より始められ、「東北を忘れない。これからも、ずっと。」という思いのもとで行われている長期的な復興支援の一環です。災害の多い日本にあって、互いを支え合う思いのもと、東北の被災地の現状にあらためて目を向け、支援活動の資金を得るために今年も開催されます。その収益は、大学の震災復興支援活動等のために使われることとなります。

当日は、聖心姉妹校、卒業生、聖心会などによるミニバザー、震災に関する展示、東北物産展などが行われます。初等科からは福島県南相馬市に住む小学生とのお手紙を中心とした交流について、展示発表があります。ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。初等科生は、制服着用の上、保護者同伴でお願いいたします。

なお、会場が例年と異なります。また、今年度は手話クラブなどの出演はありません。

### 6月の生活目標

持ち物のルールと記名の徹底 児童手帳をよく読み確認しましょう。

みこころの月のプラクティス

Generosity

—わたしをお使いください—

## 教頭 中塩 百合

